

幼児教育センターだより



大田区教育委員会 幼児教育センター
(5744)1618

梅香る季節になりました。子どもたちは、就学・進級など新しい生活に期待を胸いっぱい膨らませて、様々な経験を楽しみながら遊びを通してたくさんのことを学んでいくことでしょう。

今号では新しい一歩を踏み出す季節に、【靴の脱ぎ履き】について特集します。日々の中で何気なく行う動作ですが、改めて振り返ることはなかなかないのではないのでしょうか。

何気ない日々の行動を子どもが身に付けられるようにするために大切なことを考えてみました。

靴の脱ぎ履きが身に付くように

～ほめることも大事、認めることはもっと大事～

子どもが自分で靴を履けたとき「自分でできた！」という達成感を見守っている大人も認識しやすいので、「できたね！」とその場で認めることで自信につながります。

子どもは、後から「さっきの〇〇上手だったね」と声を掛けられても何のことも思い出せないことが多いので、すぐに声を掛けてあげることが効果的です。

『今は、成長の段階で少し時間がかかるかもしれない』と気持ちに余裕をもち、チャレンジを認めましょう。



子どもが自分でできるのに、または、やろうとしているときに親が手伝いすぎてしまうと自立を妨げてしまいます。

自分でできることもやらなくなり、自分で決めることも決められなくなってしまいます。

子どもは、やり遂げる過程の中で成功体験や達成感を味わいます。

このことが、自分でしようとする力につながっていきます。大人は、近くで見守り、タイミングをみて手伝うことで、自立心をしっかり育てていきたいですね。

はけた!



☆☆☆足に合った靴を履きましょう☆☆☆

子どもたちの成長は、早いですよね。『すぐ大きくなるから・・・』と少し大きめの靴を選ぶことはありませんか？アツという間にサイズが小さくなってしまって、あまり履いていないのに合わないなんていうこともありますよね。

靴のサイズが合っていないと脱げないようにするため、指をあまり使っていない状態になり、靴の中で足が動いてしまったり靴擦れしたりして、痛くて正しい歩き方ができなくなります。

爪が伸びていて靴に当たって痛い場合もあります。

子どもが「靴がきつい」「靴が大きい」と知らせることは難しいものです。

どうしてもというときは、インソールなどを使用する方法もあります。

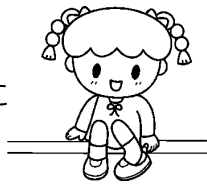


「やってみよう！」そのために・・・

【座って靴を履いてみよう！】

最初から、立って履くことは難しいので、座って履くことからやってみましょう。

低めの椅子や、玄関の段差などに座るとやりやすいです。



【立って履いてみよう！】

お子さんの成長に合わせて、履き方を変えていけるといいです。

立って靴を履くときは、履き方を知るほかに、体のバランスがとれるようにすることも必要です。



【健康に過ごしてみよう！】

「お散歩楽しいね。」「公園行こうか」など、外に出かけることが楽しいと感じると、靴を履くことへの意欲につながります。

季節ならではの発見やお子さんの目の高さにしゃがんで一緒に周りを見るのも楽しいかもしれませんね。

お子さんと一緒に歩く・走る・跳ぶ・しゃがむなど、体をおもいきり動かして遊び、体力を付けることや、『一緒に遊んで楽しい！』という経験が、「また行きたい」「〇〇やりたい」などワクワクする好奇心にもつながります。



靴の選び方とひと工夫

靴の素材選び



清潔に保てるように、洗えて乾かしやすい素材を選ぶこと。例えば、メッシュやキャンバス地のもの。小さいお子さんは、脱ぎ履きしやすいマジックテープのものがいいです。

履きやすくするひと工夫 その1



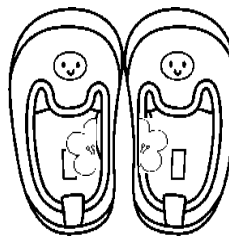
かかと部分にループを縫い付けると、指を入れられたりひっぱったりできて履きやすくなります。

靴のサイズ選び



かかとを合わせて履いたとき、足の指に動かせるくらいの5mm～10mmのゆとりがあること。

履きやすくするひと工夫 その2



左右の靴の中に絵や模様などの分かりやすい印をすると、靴を履くときに、左右認識がしやすいです。

(例)左右正しく置くと
←このような絵になる等



～小学校入学前に身に付けたい靴の脱ぎ履き～

小学校に入学してすぐの子どもの様子をみたときに、靴箱の前や床に座り込んで靴を履き替える姿を度々見かけることがありました。人の往来や大勢通る場所を妨げてしまうことにもなります。少しずつ履き方や靴をそろえる、靴箱に入れるなどのマナーや、靴ひものある場合は結べるようにしておくことも、成長に合わせて身に付けられるようにしたいですね。